

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700181		
法人名	三村電機株式会社		
事業所名	グループホーム えがおの家(ユニットA)		
所在地	天塩郡天塩町字川口5692-1		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	令和元年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年4月1日に開所し、一年が経過しようとしています。町内に初めてできるグループホームということで、最初はどういう施設なの？と聞かれることが多かったですが、地域ケア会議棟で周知していった結果、各事業所のケアマネージャーの協力もあって徐々に認知されていっていると感じています。
当グループホームでは理念にもある通り「待つ・見守る・優しいえがお」の通り、ご本人の持っている力を十分に発揮していただき入居された時より出来ることが減らないように「待つ介護」を心掛けています。「グループホームで生活したら元気になったね」とご家族や地域の方から言われるように努力していきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0196700181-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に全職員で理念の必要性和地域密着型サービスの意義を話し合い、理解し意思統一が図れるように全職員で理念を考えた。理念はユニット入口に掲げ、目につくようにしている。ケアに悩んだとき、全員で考えた理念を思い出すようにしている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会(6丁目)に入会した。町内会長が運営推進会議にも入っているため、町内会活動への参加や町内会からグループホームへの協力なども含め、町内会総務部とも話し合いをしているが、まだカタチとしてできていない。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座を町民向けのもの、高校生ボランティアからの依頼により行った。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ができずに来たが、開催時には、行政職員、町内会長、民生委員、入居者の家族から積極的なご意見をいただき、改善できるものは改善し、サービスに活かせるものは取り入れるようにしている。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本町で初めてのGHということもあり、開設前から町担当者とは連絡を密に取っている。月初めには入居状況を報告もしている。			
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠やベッド柵などについても、ご家族に説明し行っていない。また、日頃よりスタッフ間でも身体拘束について話している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待や不適切なケアについて開設前にGH協会会長に講師をお願いし研修を行った。その後は、ユニット会議や日々の情報共有時に確認し合い意識を高め防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士として成年後見活動も行って（現在、保佐1件受任）日々、権利擁護について学んでいる。職員にも権利擁護については冊子を見せたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分時間をかけて説明している。その後、説明を求められた場合にも説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の都度、積極的に入居者の生活に対する意見や要望がないか声かけを行っている。また、要望等はスタッフで共有するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なものは月1回ユニット会議を行っている。また、状況に応じ臨時的な会議も行っている。職員の意見や提案をくみ取り、事業運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	まだ開設して1年、またユニットとしては2カ月ほどであり、GHとしてはまだ整備しきれないが、勤務内容などの希望を出来る限り聞き入れ、可能な限り反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職歴や経験年数などを勘案し、資格取得や研修への参加について配慮している。ユニットより介護福祉士合格者と認知症ケア専門士認定者が出た。また、日々の業務の中で、それぞれが考えながら実践に取り組めるように、それぞれの意見を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、開設前から付き合いのあるGHへ時折、情報交換や勉強をしに行く機会を作っている。また、職員にも近場で行われる研修や交流の場に参加できるように努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問・来訪し入居者の生活歴を理解し、サービスを開始するようにしている。また、個々の意向を取り組み信頼関係を築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活や意向をくみ取り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供前にご本人や家族との聞き取りを行って、意向をくみ取り生活支援に活用している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に楽しみながら、職員も入居者もそれぞれが支え合って暮らしている家だということを意識して関りを持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会、また入居者がご家族の元に外出、外泊するなどにも積極的に支援している。ご家族へは面会時にご家族だからこそご本人にできる支援への協力をお願いしたり、日頃の様子をお知らせしている。また、ご家族向けの広報誌を作成している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴などをご本人やご家族から聞き取り、入居後も出来る限り今までの生活を継続していけるよう支援している。知人や友人との関係も途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し考慮している。入居者の一人ひとりの状態を職員同士で共有しあい、居心地の良い関係性の中で暮らしていけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と暮らすことになり退居された方がおり、ご本人には、なにかあればいつでも連絡してくださいと話し、ご家族には在宅での介護や認知症のことで困ったことがあればいつでも相談してくださいと話している。また、関係機関とも情報を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を尊重し、意向や生活歴、こだわりなどをスタッフで共有理解して、ご本人が居心地よく安心して暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を入居時に伺うとともに、入居後もご家族や、知人、友人などからも伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の内容を記録し申し送りを行い共有している。また、いままでの生活歴や既往歴、身体状況を理解して、適切なケアを提供できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向(ご本人が無理ならご家族)をスタッフ全員で共有し、同じ目標に向かってケアを提供している。また、ユニット会議で評価、情報共有を行い、意見を出し合いながら介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア記録などは情報が共有できるよう管理支援システムが導入されている。また、1人ひとりがより良い暮らしに近づけるよう、スタッフが気づいたことや思いを記入できるように個別にノートを用意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の意向や家族の意向を把握し、生活の様子に適したケアの提供を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症サポーター養成講座を受講した高校生ボランティアの受け入れや町が社協に委託しているいきいきサロンへの参加等検討中であるが、まだユニット内の人員配置や入居者の状況も落ち着いてないことから実践はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関にて適切に医療を受けている。また、ご本人や家族の意向に沿って、主治医以外の受診も支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していない。しかし、協力医療機関である町立病院への受診時など、日々のご本人の情報を提供し、時に相談させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関である町立病院とは、入院時や退院に向けての情報を密に取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていない。契約時にもその説明と了承を得ているが、協力医療機関と早い段階で連携・協議し対応したいと思う。現状、対象者無し。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講し学んでいる。また、ユニットAとしての緊急時マニュアルや夜勤帯の待機も整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。管理者を中心に必要に応じて避難できるようにスタッフ全員で考えている。また、今後の課題として地域に協力を得られるように関係構築を図りたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのこだわりを尊重し、尊厳できるように関わりを持っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から希望やこだわりを確認し、希望が実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から一人ひとりとの関りを多く持ち、一人ひとりの希望を伺い、画一的ではないそれぞれのペースにあったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪染めをしたり、服を用意してもらったり、化粧したりとご家族のご協力もいただきながら、身だしなみを整えおしゃれもされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は調理されたものを提供しているため、一緒に準備はできていないが、1人ひとりの好みには気がつかない、また下膳等できることはお手伝いいただいている。ときどき、メニューから好きなものを選んでいただき出前なども取って楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の意見を聞いたりしながら、それぞれの適量を理解して食事や水分を提供している。また、咀嚼や誤嚥、便の状態から食事形態にも配慮しご本人や家族とも相談して提供している。入浴時には必ず体重測定をし変化に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前に状況に応じて支援を行っている。ご本人でできる場合は促したりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、1人ひとりのパターンに合わせ支援ができるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居時に既に下剤を服用されている方もいるが、ヨーグルトや牛乳などで整腸に働きかける努力をしている。また、できるだけ歩くよう促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの人数に余裕が無いため、夜間や夕方入浴はできていない。また、曜日も特に決めておらず基本的には入りたい日に入れることになっているが、これもスタッフの人数に余裕が無いため、毎日入るような対応はできていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共用スペース(食堂・リビング)の時間は決めているが、居室での生活については一人ひとりのリズムにできるだけ配慮して関わりを持っている。影響の無い範囲であれば起床が遅くてもその時々で対応している。室内の温度設定にも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が一人ひとりの薬の目的、副作用などを確認し、スタッフ全員へ共通認識として伝えている。また、処方の変更や薬による症状の変化の疑いがある場合は、主治医や薬剤師に問合せ相談しながら服薬の支援にあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	GHでの生活を家で過ごしているのと、できるだけ変わらないように支援に勤めている。スタッフが全てを行うのではなく、生活の一部として掃除や洗濯物など、その人のできることをできる範囲で行ってもらい、一緒に生活している家としている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などは、ご本人の希望があれば一緒に外出している。また、ご家族のご協力で外出したり買い物や外食に出る機会もある。これからの課題として、毎日の散歩などの支援もできればと考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の理解を得ながら、ご本人が金銭を管理できる場合はご本人でできるよう支援している。GHにある自動販売機でのご本人による購入や、買い物時にご本人が自分で品物を選び支払うことができる人にはそのような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には携帯電話を所持し自由に電話をしている。また、携帯電話を所持していない場合もGHにある電話の子機にて自室で電話することも可能。手紙についても、読んであげたり支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、音、職員の話し声など入居者が不快とならないように配慮し、居心地の良い環境づくりに努めている。リビングには新聞を置いたり、季節に合わせた大きなカレンダーを作って貼ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの様子や相性に職員は気を配りそれぞれの居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に説明し、馴染みのある使い慣れたものを使用していただき居心地の良い居場所づくりができるよう努めている。また入居後も、壁に釘や画びょうなども使用しても良いので、写真を貼ったり時計を掛けたり自由に使ってもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは、入所者一人ひとりの身体能力を理解して安全で自立した生活が送れるように、リビング、居室、廊下、トイレなどの環境づくりに配慮している。また、日頃の体調の変化などによる身体能力の状況も共有し、必要に応じて環境の改善を図っている。		